

## 令和5年度第2回兵庫県立図書館協議会 会議録

### 1 日時及び場所

令和6年3月6日(水) 15:00~17:00

### 2 出席者

協議会委員 角本委員 藤井委員 太田委員 川石委員 木村委員  
黒岩委員 坂下委員 津谷委員 中山委員 西海委員

教委事務局 社会教育課 谷本指導主事

県立図書館 村上館長 小藤次長  
小野山館長補佐兼総務課長 前川ふるさと・資料課長  
利用サービス課 上村指導主事、古川司書、山本主査

### 3 議事

#### (1) 県立図書館運営状況について

館長補佐より、「令和5年度 県立図書館の取組状況(令和6年1月末現在)」(資料1)、「令和6年度 県立図書館の取組」(資料2)に基づいて説明。

(委員) 年明けに大きな地震があったが、震災関連の問い合わせや貸出は増えたのか。人と防災未来センターや神戸大学にも震災資料が多くあると思うが、そちらとの棲み分けはどうなっているのか。県立図書館の資料の特徴がどこかに記載されているのであれば教示いただきたい。

(図書館) 能登地震以降の震災関連の問い合わせ等は特に増えてはいません。人と防災未来センターや神戸大学の震災文庫との棲み分けについては、人と防災未来センターは震災時に動かなくなった時計などのモノ資料を保管しており、県立図書館は書籍を中心として、チラシやパンフレットも保管しています。

神戸大学の震災文庫は幅広く資料を収集しており、書籍に加え一次資料なども集めていたように思います。一昨年9月までは神戸大学震災文庫と当館で震災資料の横断検索機能がありましたが、9月で終了となりました。

人と防災未来センターや神戸大学震災文庫については国立国会図書館「ひなぎく」のデータベースに参加しており、震災関連資料を全国的に展開しています。当館はシステム更新作業等があったためまだ参加できていませんが、これから作業をしていく予定です。

(委員) 「ひなぎく」に登録されたら、県立図書館の震災資料もそこから検索できるのか。

(図書館) おっしゃるとおりです。

(委員) 令和5年度の実績から、「子ども子育て資料室」「課題解決コーナー」の活用方法について詳しく教えてほしい。また「しょくぶつ探検」についてはどの辺りを探検したのか、どのような効果があったのか教えてほしい。

(図書館) 「しょくぶつ探検」は明石公園内で葉っぱや宝物を探し、自分たちの手作り図鑑を作るイベントです。県立人と自然の博物館から講師を招き、県立図書館にある資料から、好きな葉っぱについて自分で調べます。ただ宝物を集めるだけではなく、自分だけの図鑑を作成することで興味を広げ、図書館や本に親しむきっかけ作りとしています。結果的には親子で楽しんで参加していただきました。

(委員) 少子化で子どもの数が減っている中、IT化が進んでおり本という紙媒体に触れるきっかけが減っている。県立図書館は広報が弱いように思うため、夏祭りに遊びに来るだけでなく、子どもたちに県立図書館の魅力が伝わるように、市町立図書館を通して県立図書館へ行こうという広報をするのが良い。そこに「しょくぶつ探検」を加えると良いと思う。

(図書館) 県立図書館は新聞やテレビなどに年間50件以上取り上げられています。いろいろなアイデアを出しながら、新聞社等とのつながりも大切にし、県立図書館の活動のアピールは続けていきたいと考えています。

(委員) 子どもたちの興味や探究心、達成感を育むことを大切に、引き続き頑張してほしい。

(図書館) 当館は専門的な部門の資料を中心に収集しています。一方で子どもに親しみを持って

らえるようにイベントを開催したり、子ども会連合会の「あそぼう」に掲載をいただいたりしています。1月20日には兵庫県子ども会連合会理事長より感謝状をいただき、ありがとうございます。今後も子ども向けの企画に注力し、本に親しんでもらえるようなイベントを増やしていきたいと考えています。

(図書館) 「子ども子育て資料室」について、配架している本は寄贈によるものが全てです。子どもだけでも楽しめるような仕掛け絵本などがあり、広報したいのですが難しいのが現状です。夏祭りなどのイベントでの広報に加え、県立図書館の利活用方法などは学校サポート講座の際に広報しています。

「課題解決コーナー」は移動できる机を配置したり椅子を多めに置いたり、配架している資料は分類ごとに見出しをつけてわかりやすくしています。

(委員) 毎年干支の冊子を作成しているが、神戸新聞の論説室では干支の冊子に掲載されている内容が話題の宝庫だと考えている。例えば、13回前の辰年に兵庫県が誕生したという話題を実際に記事に使わせてもらった。知の発信は、図書館の広報であると思う。

今年は50周年が目玉の広報だと思うが、記事で大きく書けるかということ、現時点の資料を見ると切り口が見当たらない。50年間の中でたくさんの苦労があったと思う。県立図書館が将来どのような図書館でありたいかというこれからの50年のビジョンを示しつつ、現在抱えている課題を示し、県立図書館のストーリーが見えてくると、もっと興味が引き出せると思う。

(図書館) 中期運営方針は5年スパンで作成しており、もう少し長いスパンで考える必要があると認識しています。

(図書館) 他府県の図書館が取り上げられている記事を見るたびに、もっと頑張ろうという気持ちになります。50周年は節目だと考えているため、勉強して良い前例に少しでも近づけるように広報していきたいと考えていますので、ご指導よろしくお願いたします。

(委員) 節目は注目を浴びやすいのでぜひ頑張ってください。

(委員) AIの時代なので、著作権が重要なテーマだと考えている。図書館職員の研修として著作権をテーマにすることは非常に良いと思う。さらに講座で著作権を取り上げてほしい。自分は子供たちに、些細な調べ物に対しても参考資料として辞書や出版社の名前を記載することの大切さを教えたことがある。ぜひ著作権をテーマとした講座を開催してほしい。

(図書館) 今後テーマとして検討させていただきます。

(委員) 著作権について学び、身につけたスキルは一生の財産になると思う。

(委員) ぜひ学んでほしいテーマである

(委員) 本の読み聞かせを、職員またはボランティア活動で行ってほしい。県立図書館の蔵書から兵庫県に関連するような昔話や震災の本の読み聞かせを、継続して月に1回程度行くと子育て世代の利用も増えるのではないかなと思う。50周年が一区切りついたら考えてほしい。

(委員) ボランティア活動の課題について、図書館はどう考えているのか。

(図書館) ボランティア活動について、個人情報等の兼ね合いからカウンター業務は行わない等の制限を設けているが、ボランティアは図書館で働く意欲のある方達なので、さらなる活用を検討していきます。

(委員) 50周年や夏祭り等の一時的なイベントの際に中高生へボランティアの案内があると、県立図書館を利用してなかった生徒たちもボランティア経験を通じて県立図書館に興味を持つきっかけになるのではないかな。本校生徒が播磨町のボランティアに参加したあと、地域に対する意識が高まったため、県立図書館においても同じ効果があるのではないかな。県立図書館から案内してもらえたら、生徒にも案内する。

学校サポートプロジェクトについて、探究学習は教育現場で流行っているため狙い目である。小中高校に出前講座ができると広報すると、各学校で食いつくのではないかな。特別支援学校でも読み聞かせ等の本に接する機会が必要だが特別支援学校の図書館は蔵書が多くない。特別支援学校との連携ができれば良いと思う。

(委員) 自分の経験から言わせていただくと、特別支援学級・学校での読み聞かせは大変だと思う。子供たちが喜ぶ本やモノを探すことに苦勞する。また特別支援学校等にはいろいろな児童生徒が在籍しているため全体と一緒に読み聞かせをすることは本当に大変だということを理解してほしい。

(図書館) 県立図書館と市町立図書館には役割の違いがあります。市町立図書館は市民に近い立場

で、市民が読みたいと思うような小説や絵本を購入します。県立図書館は子供向けの蔵書が少なく絵本も購入していませんが、市町立図書館で購入できない高価な本や専門書を購入し、県民や市町立図書館の相談に貢献しています。

そのため県立図書館は読み聞かせを行っていませんが、市町立図書館の要望に応じて読み聞かせの研修を開催しています。研修を生かし県全体として本に親しむという流れをつくり、県立図書館に来てもらうきっかけになったら良いと思います。

(図 書 館) 高校生ボランティアについて、今年の夏祭りで絵本の読み聞かせに来てもらいました。読み聞かせに参加した子ども達は非常に喜んで聞いていました。ぜひ高校生にボランティアに参加していただけたらと思うので、学校と連携し、活動内容については、提案型で参加いただく方向で、積極的な呼びかけを行いたいと思います。

(図 書 館) 学校サポートプロジェクトのうちセット貸出について、ジャンルごとにセットものを作って貸し出しています。また、探究学習でピンポイントな要望にも応えています。高校以外も対象ですが、内容が難しい本が多いため高校生が対象となる場合が多くなります。

セット貸出について知らない学校が多く、学校サポート講座で広報した際に、初めて知ってもらうことがほとんどです。セット貸出、学校サポート講座などの広報に注力したいと思います。

(委 員) 県内の高校生たちに自作絵本を募集し、50周年の目玉にしてはどうか。絵本が集まるし、高校生や保護者、小中学生にも知ってもらうきっかけになる。絵本を購入していないということだが、自作絵本が蔵書になると、県内の学生が作った絵本が県立図書館で読めることになって良いのではないかと思う。

また、令和6年度の人と情報の交流拠点機能の充実について、具体的に交流スペースの運用のビジョンが見えないので教示いただきたい。

(図 書 館) 自作絵本について、県立図書館は予算も人員も限られているなかでどのようなイメージを持って行くのか教えていただきたいです。例えば、子どもたちに自由に絵本を書いてもらい配架するような形式だとできる可能性はあると思いますが、賞品なしで募集する形では、参加してもらえるのが課題です。また自作絵本を作成するには費用と時間がかかるという問題もあります。

(図 書 館) 最近は紙の本ではなくシステムで絵本をつくるソフトもあるので、電子上の絵本を作るという方法もあると思います。

(図 書 館) 交流スペースについては県立図書館の施設は構造上スペースが限られてしまい、今ある談話室やロビー、試写室等をどう活用するか活用方法を広げていこうと考えているところです。図書館の中で流れを作れるように考えていきたいと思っていますが、実現できていないのが実情です。また、使えるスペースを拡大できないか検討していきたいと思っています。

(委 員) 立地条件が明石市民向けになっているところもあるが、遠いところから来てもらっても来てよかったと思ってもらえるようなスペースがあればいいと思う。

50周年の目玉として、中高生が考える本、漫画等を募集してみてもどうか。スマホ等で作成できるものもある。

遠方の方も電子で応募する形ならたくさん応募してくれる可能性もあるように思う。お金をかけずにできる方法を考えるのが大人の仕事だと思う。

(委 員) 非来館型の参加しやすい学習機会の提供について、講座を動画で配信しているところがとても良いことだと思った。神戸市立中央図書館では講座の動画配信をしておらず、対面の参加形式だけでは1日で参加枠が埋まってしまうことがあったため動画配信は大事なことだと思っている。また神戸市立中央図書館ではSNSのフォロワーが増えないことが課題である。

(図 書 館) 講座の動画配信について、講師の先生によっては著作権の関係で配信できないこともありますが配信可能な講座は配信するようにしています。SNSについては魅力的な本が入ったことや講座を開催するお知らせ、職員がしていること等の発信を地道に続けていくしかないかと思っています。

(委 員) 私はボランティアとして毎週2時間ほど作業をさせてもらっている。とても良い環境だが、それぞれの力にあった活動があれば良いと思っている。

また、県立図書館で探究学習に関するコンテストがあれば良いと思った。紙1枚で展示できるものであれば予算もそれほどかからないし、高校生が参加しやすいと思う。

(委 員) 県立図書館の蔵書を使った調べ物に特化したコンテストが開催できたら良いと思う。50

年のうちに県立図書館や県下でどのようなことがあったかを調べたらいいのではないかと。黒岩委員に質問ですが、探究学習のテーマを決定するときは、純然たる知的好奇心から決定しているのか。

(委員) 理想的には生徒の興味関心から決定したいと思っている。が現実的には難しいので、教員である程度の枠は決めている。

(委員) 県立図書館の資料を使った調べ学習の成果をポスターで作成し、各県立学校から1人ずつでも発表してもらえたら良いのではないかと。コンテストでは優劣がついてしまうためそうならないような形式で実施すると、県立図書館の歴史を調べてくれる生徒がいるかも知れない。

(図書館) ボランティア活動について、本当に満足して活動いただいているのかを気にしています。人それぞれ活動についての思いがあると思うので、年度初めにはボランティアから意見をいただき、お任せができることがあればお任せしたいと考えています。意思疎通しながらやっていきたいと思っています。

(委員) 来年度の計画について、50周年というメモリアルイヤーの行事をどうするのかを伺いたい。メモリアルイヤーの展示について、書庫に眠る展示、体験型の展示について、具体的にどのようなものを予定しているのか。50周年の特別展示「50年の軌跡」について、具体的なイメージはどのようなものか。夏祭りの拡大版は非常に良いと思うが、文化財等で普段は非公開の分を期間を定めて公開するような形で、普段は配架していない書物を例えば夏祭りの1日だけ配架してみるのはいかがでしょうか。

出前講座の生涯学習関係団体へのPRについて、各市の公民館と連携できるのではないかと。市によっていろいろな形で経営しているが、担当者によると講師の選定に悩むことが多いということだった。県立図書館が公民館で、例えば高齢者向けの出前講座を行い、存在感を出せるのではないかと。

企業との連携について、KOBELCOや神戸新聞社以外の企業との連携は考えているか。

(図書館) 50周年特別展示について、書庫に眠る普段目にはできない資料の展示を考えています。体験型の展示としては、講座と絡めて行うことも考えられます。

例えば**建築**の展示では明石工業専門学校と連携し、県立図書館の資料に加え資料に載っている有名建築物の模型を展示します。資料と模型を色々な角度から見ることで、深い理解とその建築物の中にあるような仮想体験もできると考えています。本を読んで終わりにするのではなく、より深い学びになることが大切であり、この仮想体験も広い意味で、体験型の展示と言えると考えています。

(図書館) 「50年の軌跡」の展示について、50年の図書館の歩みのほか、50年の間に出ている昔の写真集、昭和が振り返れるようなものなど、いろいろな観点から50年を振り返るというものを考えています。

特別な資料を展示する期間を設けることも想定しています。夏祭りの日だけ特別に展示することや、1週間程度の展示なども考えられるので、今後検討したいと思っています。

公民館へのお出前講座を行いたいです。が、広報が不十分なため県立図書館に声がかからないのが実態だと考えています。公民館に伝える方法を考え、広く県立図書館を使ってもらえたらと思います。

企業の連携先については確定していませんが、KOBELCOとは毎年連携しています。また神戸に所在するBL出版は当館と同じく今年50周年を迎えられるので、今後新たに連携させていただきたいと考えていますが、まだ想定段階のため具体的には記載できませんでした。

(委員) 次長のお話だと図書館以外とも連携したものだと思うが、「50年の軌跡」という仮題を見ると、図書館オンリーの形になるように見える。違う題名を考えた方が良いと思う。公民館については、一度電話で問い合わせてみるという。

(図書館) 一度公民館に声をかけてみたいと思っています。